

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470501572		
法人名	社会福祉法人 本城福祉会		
事業所名	グループホーム セラピス		
所在地 (電話番号)	呉市栢原町150-2 (電話) 0823-30-5150		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成 22年 1月 27日	評価確定日	平成 22年 2月 22日

【情報提供票より】(21年 12月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 2人, 非常勤 14人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄 骨 造 り (アルミニウム板葺平屋)	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	18,000(21,000) 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	90.88 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サン・クリニック(内科)、グレース歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人本城福祉会が経営する当ホームは、広い敷地内にデイサービスセンター、特別養護老人ホームと一緒に建てられている。近くの保育園・幼稚園からは園児たちの生き生きとした声が聞こえ、ホームとの交流がよくある。また、音楽療法士による歌や手拍子等の音楽療法が週5日行われ、適度な刺激を受けながら楽しく機能維持を保っている。職員は利用者の「介護度を下げない・維持する」ために、なるべく車イスを使わないようにし、オムツもできるだけ使わないように支援している。利用者は職員と家族のように接し、穏やかに日々を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題は、「運営推進会議の実施」「災害対策」であった。運営推進会議は、今回外部評価を行なった日にはまだ開催されていないが、2日後に開催する運びとなっていた。災害対策については、昨年1回避難訓練を行っている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員の意見を取り入れて作成し、改めて事業所の取り組みを見直すいい機会となった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は1/29に初めて実施される事になっている。自治会長や民生委員、行政とは、日常的に行き来や情報交換をしている。また、地域の方やボランティアの来訪がよくある。運営推進会議の定期的な開催により、事業所がさらに地域と交流し発展することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会がよくあり、家族は職員に意見や苦情を言いやすい関係作りができています。直接苦情があった場合は、管理者・理事長に報告され、迅速な対処、職員への徹底がなされている。重要事項説明書には第三者機関の苦情相談窓口の記載がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	高齢のため、出向く事の難しい人もいるが、母体施設のデイサービスに様々な来訪があり、見に行っている(自治会の大きな行事<夏・秋祭り>や小学生の敬老の日の慰問・発表会の劇、ボランティア等)。ホームにも母体グループの保育園・幼稚園児の慰問、中学生の清掃活動・職場体験、ボランティアによるオカリナやハーモニカの慰問などがあり、地域との交流はよくある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お互いが支え合いながら自由に楽しく我が家のように過ごす」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付く場所に掲示してある。ミーティングや申し送り時等でも理念を共有し、管理者自らが理念に基づいたケアを実践している。職員も理念を念頭においたケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事、祭り、敬老会への参加、近くの幼稚園児や小学生の劇などの慰問、地域のボランティアの方々の歌や踊りの慰問等により、地域との交流を深めている。 また散歩中はあいさつを交わし、近所の人から花やメダカの差し入れをされたこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価を行うにあたって、職員全員が一度に集まって話し合いを行うのは難しいが、全員が意見を出し合いまとめている。 外部評価の意義もよく理解し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や民生委員、市職員とは常に話し合いの場を持ち、実質、運営推進会議に準じた会合の場を持っているが、正式の会議としては今年1月29日に第1回目を開催する予定で準備を進めている。 出席予定者は民生委員、自治会長、家族代表、地域包括支援センター職員、ホーム職員である。	○	2か月に1回以上、必ず継続的に、確実に、実施される事を期待する。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体施設に呉市地域相談センター、居宅介護支援事業所があり、その職員を通じて市担当者と連絡を密に取り、必要な情報のやり取りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会はよくあり、その都度利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを伝えている。電話で様子を伝える場合もある。行事の写真を家族に差し上げ、喜ばれている。金銭管理については毎月の報告書に領収書を添付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が職員に意見や苦情を言いやすい関係づくりができています。苦情があった場合は、すぐにミーティングを行い対応している。重要事項説明書に第三者機関の苦情窓口の記載がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに離職者があまりないが、もし離職者があっても、全職員が全利用者を把握しているので、対応できる。なお、利用者・家族への説明は十分行うように考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が年数回外部研修に参加し、伝達研修を行っている。職員は母体施設の看護師から医療的な話を聞いたり、実際に仕事をしながらの実地研修が殆どである。	○	各職員のレベルに応じた体系的な研修体制を作られることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体施設の職員が焼山地区のグループホームと頻繁に交流し、情報交換を行っている。必要な情報はこの職員からホームにもたらされている。		同業者との勉強会や相互訪問等を通じて情報交換を行い、更なるサービスの質の向上に役立てていただきたい。

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学はいつでも受け入れている。見学者には実際に事業所の一日の流れに参加してもらっている。見学に来られない人には訪問面接を行い、生活歴の把握に努めている。 入居後はその人に応じた見守りや声かけをしながら徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、やさしく声かけをしている。利用者からは愛情あふれることばが返ってくる。利用者が入居前の生活の続きと感じるように、家族のような関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴を聞き、希望や意向の把握に努めている。 何気ない会話の中から得られた情報は、連絡ノートや個人記録に蓄積し、全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合い、本人がよりよく暮らせるための介護計画を作成している。 課題達成のため、具体的にどうしたらいいかを細かく考えている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回/6か月 の定期的な見直しを行っている。 見直し以前に変化があれば、その都度新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診支援、買い物、散歩、外泊、友人の訪問、墓参り等、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。家族に代わって職員が付き添う場合もある。毎日のバイタルチェックは職員が行い、医療面で気になる事があれば母体施設の看護師がかけつける。協力医(内科、歯科)による定期的な往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者・家族・スタッフとともに重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、方針を決め、合意を得て、全員で共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ことば遣いは丁寧に穏やかに接するように心がけている。利用者のプライバシーは、たとえ家族でも守ってもらうよう配慮している。個人記録は鍵のかかる戸棚で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「1日の流れ」はあるが無理強いせず、一人ひとりの状態やペースに合わせて支援している。職員は声かけをして、利用者の希望に沿った一日が過ごせるよう支援している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルで会話を楽しみながら一緒に食事をしている。食事介助のいる人には、職員がさりげなく介助しながら和やかな雰囲気ですべてしている。できる人には食事の支度や片付けもしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室・脱衣室とも明るく広々としており、浴槽もかなり広くゆったりした気分に入浴を楽しめるようになっている。気もちよく入浴してもらえるよう、職員は声かけに工夫をして、最低でも週3回位入浴支援を行っている。足湯やシャワー浴も利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌好きの方が多く、リビングのテレビでカラオケを楽しんだり、季節ごとの飾りつけを手作りしたりしている。洗濯物干し・たたみ、掃除、食事の片付け、野菜作り等、職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢の方が多く、あまり遠くまで散歩はできないが、天気や状態をみながら散歩に行って近所の方と挨拶を交わしている。テラスでお茶にしたり庭を歩いてデイサービスに通ったり、なるべく戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中は玄関に鍵をかけず、見守りを重視している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年11月に利用者・職員で避難訓練を行った。何かあれば母体施設の「柝の木荘」にすぐに応援を頼める体制になっている。緊急時に備え年2回以上の訓練を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、持病のある方にも対応した食事や「きざみ食」等、一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。 食事量・水分量は毎回チェック表に記録し、便秘の方には水分補給を小まめにするようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓のある明るいリビング・食堂は開放的で広々としており視界を遮るものがなく、そこからテラス、庭、山を眺めることができ、季節の移ろいが感じられる。共用空間は清潔に保たれ、音・光・においに配慮している。利用者と職員で作成した季節の飾りをさりげなく飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に備え付けのベッド、洗面台、収納場所がある。利用者は家具や仏壇などを持ち込み、馴染みの物や好みの物、家族の写真などで思い思いに飾っている。居室は利用者と職員で掃除をし、清潔に保っている。庭を眺めることができる大きな窓があり、一人の時間もくつろぐことができる。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	四季の行事など、自治会、学生の方々に参加して頂き、地域の中で暮らし続けられるよう支えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その時の状況、その方に合った介護を施設の理念と重ね合わせ管理者、職員と話し合っ取組んでいる。	○	これまでと同様「お互いが支え合いながら自由に楽しく我が家のように過ごす」理念を念頭に取組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる。	四季の行事やボランティアなど、地域の方々達との交流の様子を理念を考慮しながら家族に伝えている。	○	ボランティアの方々や地域の方々との交流のなかで、地域の大切さ、理念を理解して頂けるよう懇談の時間を設けて、具体的に対話することで理解の輪を広げる。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	施設の周りには野菜、花など植えテラスにはテーブル、椅子を置き気軽に立ち寄って頂ける様努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の行事、祭り、敬老会、小学生の劇などの慰問がある。また、遠方より踊りの慰問もあり、常に地域のボランティアの方々との交流に努めている。	○	地元地域の行事（小学校、保育園の行事など）へ参加して行きたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員個々が地域で相談を受けることがある。身につけている知識、技術などを伝えている。また、職員個々の対応が難しい場合は、他の職員に相談したり話し合いをしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部からの視点で評価して頂き、気づく事が多い。評価の意義を理解し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	平成22年1月29日開催予定。	○	参加者の方々の意見を聞き、今後の運営に役立てたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の方から積極的な連携は取っていない。	○	市町との連携を蜜にし、サービスの質を向上させ利用者が楽しく生活が送れる様、取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者は制度について学んでいる。職員も新しい制度について話し合っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	その都度、職員間で話し合い、見過ごされないよう注意し防止に努めている。		
4 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際、利用者、家族に十分説明し、不安、疑問点があれば話し合いし理解、納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情はすぐに理事長に報告、相談し解決するよう努めている。職員も話し合いし反映させている。	○	アンケート、会議等を行い、意見、不満、苦情など運営に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭の管理は毎月家族に報告し、健康状態、日々の暮らしぶりは家族に連絡している。また、職員の異動があれば面会の折、説明している。	○	そのことを記録に残していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見、不満、苦情など、その都度、理事長に報告し、話し合う機会を設け解決している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者、管理者は常時、連絡を取り合い、意見、提案などの話し合いを行い反映させている。	○	定期的に会議を行い、意見、提案を話し合う機会を設けたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、家族の要望に対応できるよう、職員の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	理事長、管理者、職員で話し合いを行い、離職を最小限に抑える努力はしているが、離職する場合、利用者、家族へ説明している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務を行いながらの外部研修は難しい。	○	管理者、職員の研修の機会を確保し質の向上に役立てたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流は行っていない。母体施設で介護技術の質を向上させていくよう学び、サービス向上にむけて取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者、職員は運営者と気軽に意見交換ができている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	管理者は職員の些細な事でも運営者に報告し、職員が向上心を持ち働けるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人が困っていること、不安なこと等、ゆっくり話を聴く機会をその都度持っている。難聴の場合は、筆談を行い理解できるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族等が困っていること、不安なこと等、ゆっくり話せる機会を設けている。早めに解決できるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族がその時に一番良い方法を本人、家族、理事長、職員と話し合っ対応できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	少しずつ馴染めるよう、声掛けし、見守りを続けている。	○	本人が徐々に場の雰囲気に馴染めるよう、様子を見ながら、利用者の方々の会話のきっかけ作りを行っている。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし ながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	会話の中に暖かい生活が見えるようです。また 愛情溢れる言葉を聴き、生活に温もりを感じ、 昔の良き時代を知ることができます。	○	これからも家庭的な生活を味わいながら、 学び支え合っていきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	こんなことで笑い、あんなことで叱られたり、 日々の生活を家族には面会の時に伝え、話し合 い、一緒に支え合う関係を築いていく。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	本人、家族とのよりよい関係が保たれる様、パ イプ役を努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている。	親戚、友人、知人からの手紙、電話などの連絡 を支援し馴染みの関係が途切れないようにして いる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同 士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握している。孤立しない 様見守りしている。気の合う方々はテーブル、 椅子など配置をし、気配りをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にし ている。	今まで自宅で復帰された方はいない。母体施設 への入所の家族に、その後の話など聞かせて頂 き、関係を大切にしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の生活歴を家族より聞いたり、本人との会話の中からその方の希望、意向の把握に努めている。	○	困難な場合は本人と良く話し合い本人本意に考え、努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談の時点であらかじめ生活歴など、情報は得ている。また、サービス利用の経過を職員が一体となり、把握ができるよう話し合いをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の環境、生活歴と現状の生活を合わせながら一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態など把握するよう、努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日、時間によって援助方法などのあり方の違いがある中で、本人、家族と話し合い、介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が見受けられたら、本人、家族、関係者と話し合い、介護計画を新たに作成している。	○	これからも利用者の心身状況に合わせた、介護計画の見直しを行っていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化などの気づきを、その都度個別に記録し、全職員が情報を共有し、実践を行い、介護計画の見直しに活かされている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時の状況、要望など本人、家族と話し合い事業所として柔軟な支援をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、地域の自治会、ボランティア、併設の幼稚園、保育所の園児達、近隣の小学生の児童との交流を行っている。	○	遠方よりのボランティアの協力も増えた。他の機関等と協力しながら、より良く暮らせるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	施設のケアマネ、地域相談センターの職員との連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談センターとは連絡を取り、必要に応じて虐待、権利擁護について情報を得ている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医と相談しながら、かかりつけ医と連絡を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医より必要に応じて、専門医への受診ができる体制はとれている。	○	主治医の指示であれば、いつでも受信できる体制にある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体施設の看護師に、日常の健康管理、医療面のことなど相談し、支援を得ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、主治医と相談し、早期に退院し、入院前の生活に戻れる様努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	疾病が重度化する前に、必要に応じて入院などしている。	○	家族、医師などと重度化、終末期など入居の際、話し合いをし、方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	これまで重度や終末期にある利用者がいなかった。	○	家族、本人の希望により、主治医、母体施設の看護師と連絡を密にし、対応していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	これまで特養、他のグループホームに行動されるケースであったが、スムーズに移り住む事が行われた。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉使いは丁寧に穏やかに接している。 判らないことがあれば、何度も説明し、プライバシーを気をつけ対応している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	判りやすい言葉で会話し、本人の思いが表せるよう場所を変えて、ゆっくり話したりしている。その時納得できるよう話し合いしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「一日の流れ」として、一日の暮らし方の基準は設けているが、一人ひとりのペースで希望に添って暮らして頂けるよう支援している。	○	本人と対話しながら生活リズムを把握し、本人の活動リズムに合った声かけを行うことで希望に合った支援を心がけていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自室、洗面台に鏡があり、化粧品などを置いて身だしなみに気をつけている。理容院は月に一度「移動理容院」を利用している。本人が希望する理・美容院には、行けるよう対応している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食卓を囲み、食事をしている。 食事介助したり、お茶を注いだりしながら、なごやかに会話したりしている。終わると片付け等一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのお菓子、果物等楽しんで食べていただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方のその日の状況を見て、おむつ、尿取りなど調整している。又「排泄状況調べ」を記入し、個々のパターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	見守り、声掛けし、おむつを減らし、脱紙パンツを目指し続ける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて入浴したり、シャワー浴、足浴など入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	気持ちよく休憩したり、安眠できるよう支援している。 布団干し、シーツ洗い、清潔に気をつけている。 又、日中はレクリエーション参加を促し、夜間眠れるよう声掛けし、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を生かし、家事をしたり、折り紙を折ったり、貼ったりし作品を作り、発表の場を設けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭は所持している。 難しい方は事務所で管理している。	○	財布を持ち、買い物に行く機会を増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	母体施設のデイルームに地域支援自治体のボランティア、遠方よりのボランティアなどに参加したり、散歩したりしている。	○	10時のおやつもテラスに出て頂き、外の空気、四季の風景を見たり、感じたり、これからは一層支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	花見には弁当を作り出掛けたが、希望していない方もいる。個別にも家族と一緒に掛ける支援をしていく。	○	行事の案内状などを送り、家族と一緒に掛けるよう支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話は使用し、外線も取次ぎゆっくり話ができる。手紙のやり取りを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの方々には、日常生活ぶりなど伝え、居間、自室にてゆっくりお茶を飲みながら、過ごせるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今まで身体拘束は行ったことがない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	顧問には職員が見守りを行い、目配り、気配りに心掛けている。玄関には施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居間全体を見渡せる間取りになっている。 昼夜通して常に見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ズボンの裾上げ、布巾作りなど針仕事をされる方の時は、そばで見守りをする。危ない物を預かる時は、本人、家族の了承を得ている。	○	鉋など職員の前で使用し終了と預かり、編み物は糸と針は職員が管理し、危険を防いでいる。終了後は必ずチェックする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じて、常に職員が話し合い、事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	急変、事故に備えて、母体施設の看護師に相談、指導を受けている。	○	勉強会を開いたり研修に参加し、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行ってほしい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は行っている。	○	訓練は年2回以上行い、内1回は夜間を想定して、緊急時に備えたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居の際に起こりうるリスクについて家族に説明し、理解を得ている。その上でその人らしい暮らしを大切に支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日同じ時間帯でバイタルチェックを行っている。異変があれば母体看護師に連絡している。 職員同士、情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬状況について職員は理解している。変更あれば説明もしているが、薬の説明書を保管しており、常に確認できるようにしている。	○	薬は職員が管理し、薬を手渡す時、日付、名前、朝、昼、夕、など確認している。薬を落とす方などは、口の中に入れ飲んだこと確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	乳製品の摂取、水分補給について注意している。水分摂取の少ない方は、一日の摂取量も記録に取り注意している。決まった時間帯にトイレに行くようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、眠前には口腔ケアの声掛けを実践している。出来ない方は職員と一緒にやっている。口腔内に異常があれば家族に連絡し、訪問歯科医に相談している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調をみながら食事量など配慮している。 食事量が少ない等あれば、主治医と相談しながら栄養剤の摂取を行い、飲み込みが悪い方は「きざみ」に変更し水分量など一日摂取量も記録している。	○	体調に配慮し食事内容に対応している。口腔からの栄養摂取が出来るようにしていきたい。 排尿量を見極めながら、水分補給を行い記録に取っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日手摺り、椅子等は清拭しているか、感染症が流行しだす時、消毒を行い利用者、職員は手洗いを施行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の管理には手袋を使用し、台所、調理用具等は清潔に努めている。	○	こまめに予防しているが、特にインフルエンザ、ノロウイルスの季節の衛生管理には十分気をつける。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りには花など植え、利用者、家族、近隣の方々にとって親しみやすくし、ゆるやかなスロープになっており車椅子も出入りしやすく工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテン、ブラインド等使用し、柔らかい日差しが入るように工夫している。居間には四季折々の生花を飾り、周りにも季節の野菜、花を植えている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士で話ができるようにソファの配置に気配りしている。又、その時の気分により自由に居場所を変える事が出来るようしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの部屋には慣れ親しんだ家具などを使用している。家族の写真を飾り、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日空気の入れ替えをし、温度調整はこまめにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室、居間など手摺りを設置。浴槽内、外にはすべり止めを使用している。トイレはL字の手摺りを設置し、安全に生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自分でできる場所は、職員の見守りの中行い、少しでも出来るところを増やすよう工夫している。	○	これからもできるところを増やし、自信を取り戻せるよう支援していきたい。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダでお喋りしながら、お茶を楽しんでいる。天気の良い日は草木を見ながら散歩している。	○	トマトなど作り収穫し、楽しんでいる。家庭菜園に力を入れ、育てる野菜を利用者様と決めて、収穫した野菜を調理し、楽しみたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	--------	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① <input type="radio"/> 毎日ある ② <input type="radio"/> 数日に1回程度ある ③ <input type="radio"/> たまにある ④ <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目